

吉本隆明全著作集

5

吉本隆明全著作集

5

文学論
Ⅱ

勁草書房

吉本隆明全著作集 5

昭和四五年 六月二五日第一刷発行
昭和四九年 二月二五日第五刷発行

著 者 吉本隆明

発行者 井村寿二

発行所 勁草書房

〔東京都文京区後楽二の二三の一五
電話番号東京八一四局六八六一 郵
便番号一一二 振替口座東京一七五
二五三番〕

印刷所 精興社

製本所 青木製本

* 定価は外函に表示してあります。

© 1970 by Takaki Yoshimoto

目

次

第I部

詩と科学との問題	五
ラムボオ若くはカール・マルクス の方法に就ての諸註	三
方法的思想の一問題	二四
前世代の詩人たち	二六
日本近代詩の源流	二六
「四季」派の本質	二九
詩とはなにか	二五
近代精神の詩的展開	二七
詩的乾坤	二九

第Ⅱ部

前衛的な問題	二五
定型と非定型	二九
番犬の尻尾	三〇
短歌命数論	四〇
三種の詩器	四五
短歌的表現の問題	五七
短歌的喩について	七三
短歌的喩の展開	八五
歌集『喚声』読後	九七
岡井隆歌集『土地よ、痛みを負え』を読んで	一〇一

第Ⅲ部

I

現代詩における感性和現実の秩序	三〇
現代への発言 詩	三五
日本の現代詩史論をどうかくか	三七
一九五五年詩壇 小雑言集	三七
現代詩の問題	三八
現代詩批評の問題	四四
現代詩の発展のために	五九
日本の詩と外国の詩	七四
戦争中の現代詩	八〇
現代詩のむつかしさ	九六

詩人論序説.....	四〇一
------------	-----

詩人のノート.....	四五四
-------------	-----

金子光晴「落下傘」.....	四五六
----------------	-----

「四季」派との関係.....	四五六
----------------	-----

情況に対する問い.....	四七〇
---------------	-----

詩論について.....	四七三
-------------	-----

II

不毛な論争.....	四八二
------------	-----

くだらぬ提言はくだらぬ意見を誘発する.....	四八五
-------------------------	-----

今月の作品から.....	四九一
--------------	-----

もっと深く絶望せよ.....	五一
----------------	----

文芸時評.....	五二〇
-----------	-----

III

ルカーチ『実存主義かマルクス主義か』	五三〇
善意と現実	五三九
新風への道	五四四
関根弘『狼が来た』	五四九
奥野健男『太宰治論』	五五一
服部達『われらにとって美は存在するか』	五五四
平野謙『政治と文学の間』	五五七
野間宏『地の翼』上巻	五六一
山田清三郎『転向記』	五六一
堀田善衛『記念碑』『奇妙な青春』批判	五五五
中村光夫『自分で考える』	五五九

堀田善衛『乱世の文学者』	………	五二
阿部知二他編『講座現代芸術Ⅲ芸術を担う人々』	………	五三
草野心平編『宮沢賢治研究』	………	五六
戦後学生像の根	………	五八
武田泰淳『貴族の階段』	………	五九
久野収・鶴見俊輔・藤田省三『戦後日本の思想』	………	五四
阿部知二『日月の窓』	………	五六
河上徹太郎『日本のアウトサイダー』	………	五〇
井上光晴『虚構のクレール』	………	五二
橋川文三『日本浪漫派批判序説』	………	五六
桑原武夫『研究者と実践者』	………	五八
大江健三郎『孤独な青年の休暇』	………	六〇

『金子光晴全集』第一卷……………六三

椎名麟三『罌と毒』……………六四

武井健人編著『安保闘争』
日高六郎編『一九六〇年五月一九日』……………六六

大岡信『抒情の批判』……………六九

渋谷竜彦『神聖受胎』……………六一

埴谷雄高『垂鉛と弾機』……………六三

ルソオ『懺悔録』……………六五

『花田清輝著作集Ⅱ』……………六七

IV

『大菩薩峠』……………六三

『大菩薩峠』（完結篇）……………六五

『純愛物語』……………六三

『風前の灯』…………… 六三三

『夜の牙』…………… 六三六

映画的表现について…………… 六三九

V

昭和17年から19年のこと…………… 六四二

十四年目の八月十五日…………… 六四四

戦争と世代…………… 六四五

読書について…………… 六四九

ある履歴…………… 六五三

小 伝…………… 六五七

想い出メモ…………… 六七七

思想的不毛の子…………… 六七九

佃んべえ……………六六三

学生について……………六六六

VI

『芸術的抵抗と挫折』あとがき……………六九二

『抒情の論理』あとがき……………六九五

『異端と正系』あとがき……………六九五

『擬制の終焉』あとがき……………六九六

『模写と鏡』あとがき……………六九八

『自立の思想的拠点』あとがき……………七〇〇

『情況への発言 吉本隆明講演集』あとがき……………七〇二

『試行』後記……………七〇四

岸上大作『意志表示』……………七四九

桶谷秀昭『土着と情況』	七九
奥野健男『現代文学の基軸』	五〇
磯田光一『比較転向論序説』	五二
戦後のアヴァンギャルド芸術をどう考えるか	五二
本のうわさ	五三
「思想の科学」のプラスとマイナス	五三
30人への3つの質問	五三
再刊・復刻を望む本	五四
はじめの志	五五
解題	五七

文学論Ⅱ

吉本隆明全著作集

5

第 I 部